

営農ウィークリーNEWS

営農者会

技術研修大会を開催

～地球温暖化における水稻の栽培技術対策について～

2月22日、JA 京都中央営農者会は、リーガロイヤルホテル京都にて、「技術研修大会」を開催されました。

近年の夏季の高温等による影響で、白未熟粒や未熟米など米の品質が低下し、等級を下げる要因が全国的に問題となっています。

今回の研修では、高温耐性品種「にこまる」と斑点米カメムシ類による水稻への被害と対策について、研修が行われました。

当日は23名の参加があり、講師には、農研機構九州沖縄農業研究センター 作物育種グループの田村克徳氏と、農研機構植物防疫研究部門の平江雅宏氏を迎え講義を受けました。

水稻品種「にこまる」と「ヒノヒカリ」の栽培方法から、斑点米カメムシ類への防除体系などの質問・意見があり、非常に有意義な研修会となりました。

また、会場には今年度検査された米のサンプルが展示され、参加者は品質の差や、斑点米カメムシ類による被害痕の違い、を熱心に見ておられました。



—TAC information— 

R5 年度京都府生物資源研究センター

成績報告会が開催されます!!

3月21日（木）に、京都府農林水産技術センター生物資源研究センター講堂にて、令和5年度成績報告会が開催されます。

今年度、新たにキュウリにおいて発見・確認されたウィルス【CABYV】についてや、花菜の根こぶ病についての発表などが予定されています。

Webでのオンライン配信も予定されていますので、ぜひご参加ください。

詳しくは、裏面へ。

JA 京都中央 2024年2月27日 No.693 作成者 上田由里子

令和5年度京都府農林水産技術センター生物資源研究センター 成績報告会開催要領

1 目的

京都府農林水産技術センター生物資源研究センターは、京都府農業の発展を担う先端の研究拠点として、京のブランド産品などの新品種育成や微生物利用による環境にやさしい農業技術の開発に取り組んでいます。

本年度は、当センターで取り組む環境負荷が少ない農業の実現に寄与するための研究をはじめ、酒米やエダマメ、京の伝統野菜など、京都独自の新品種の育成について、当センター研究員が報告します。

2 開催日

令和6年3月21日(木) 9:30～12:00

3 場所

京都府農林水産技術センター生物資源研究センター 講堂

(京都府相楽郡精華町大字北稲八間小字大路 74 番地)

ZOOM ウェビナーによるオンライン配信を併用

※参加申し込みについて、京都府農林水産技術センター生物資源研究センターの web サイト上の申込フォーム (<http://www.pref.kyoto.jp/shigenken/index.html>) から必要事項を入力ください。

(受付期間：2月21日(水) 15:00～3月13日(水) 15:00)

4 主催

京都府農林水産技術センター生物資源研究センター

5 内容

(1) 開会あいさつ

(2) 報告(概要は別紙のとおり)

① 環境負荷の少ないアグリシステムの課題と展開

基礎研究部 参事 武田征士

② ヘアリーベッチのすき込みが黒ダイズエダマメのチョウ目害虫の発生に及ぼす影響

応用研究部 主任研究員 徳丸晋虫

③ 花菜根こぶ病に対する有機酸資材の防除効果

応用研究部 主任 原田 賢

④ 京都府内のキュウリにおいて新たに発生が確認された cucurbit aphid-borne yellows virus (CABYV)

応用研究部 主任 門馬悠介

⑤ ～京の米で京の酒を～ 京都独自の酒米新品種「祝2号」の育成

応用研究部 主任研究員 岩川秀行

⑥ 枝豆新品種「夏どり丹波黒3号」の特性および普及

応用研究部 主任 内藤一平

⑦ 赤い熟果生産に適した伏見とうがらし新品種の育成 ～現地適応性の評価～

応用研究部 主任研究員 鴨志田徹也

⑧ 機能性成分リコピン含量が高く生産性の向上した金時ニンジン新品種の育成

応用研究部 主任研究員 小川昂志

(3) 閉会あいさつ